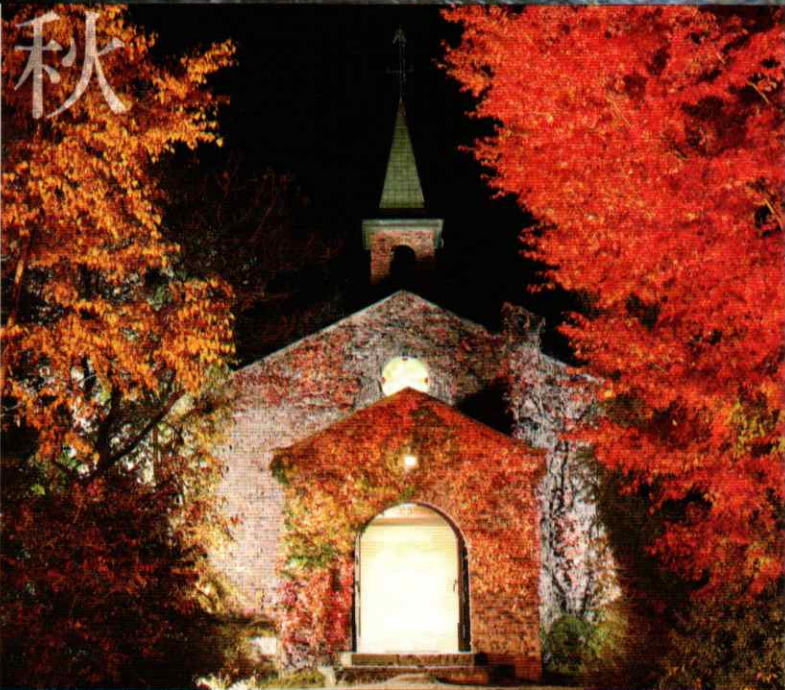


令和8年号

No.74

中京の信州人



(春) 龍門淵公園の桜とリバースポーツ (夏) 夏雲湧く燕岳 (秋) 紅葉の碌山美術館 (冬) 安曇野神竹灯

名古屋長野県人会

新春のご挨拶

名古屋長野県人会会長 宮寄 良一

(長野市出身)



新年あけましておめでとうございます。

新たな年が、皆様にとりまして実り多き佳き年となりますことを心から祈念申し上げます。

旧年は、市場経済と自由貿易を前提とする、リベラルな国際秩序の衰退が囁かれ、国内経済も好景気とは言えない年でありました。また気候変動と人口減少の影響か、熊の襲撃が相次ぎ、驚かされました。信州の山間地も心配されます。

わが県人会は、皆様のご協力により、活発に事業を展開することができました。新春懇親会には長野県をはじめとする各自治体からご来賓を多数迎えて盛大、且つなごやかに行うことができました。また9月6日～7日に開催された「ふるさと全国県人会まつり」におきましては、上田市の協力を得て、「信州上田おもてなし武将隊」の演武が披露され、大喝采を博しました。とりわけ「真田幸村」公は巧みな話術も伴って大人気で、一日中大活躍でありました。また、炎天下に拘わらず、会員の皆様のお力により、名物となった開田高原のトムロコシの販売、大行列ができた「椎茸つかみ取り」も盛大に行われました。

その外、各種「同好会」活動も活発に企画実行され、郷土訪問旅行は「高遠の小彼岸桜」の満開を楽しむことができました。目を見張る美しさで我を忘れました。

本年度も各種事業を企画し、多くの会員の皆様が積極的に参加頂ける様、会の活性化に努めてまいりたいと思います。引き続き安定的な会員増強と若手会員の増強を図りたく、ご協力を宜しく願います。

当会は、明治30年（1897年）設立以来、まもなく130周年を迎えます。これまで特色ある活動を進めてまいりましたが、従前の相互扶助から、順次立ち位置を変え、現在は「信州への貢献」「会員の親睦」「愛知と故郷の架け橋」といった要素を中心に活動しております。本年もそのような活動を更に進め、ふるさと情報の発信、愛知との相互の情報交換を図り、明るく楽しい会となるよう努力してまいります。

年頭にあたり、会員の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます、ご挨拶と致します。

令和8年 元旦

新春を迎えて

長野県知事 阿部 守一



明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

我が国は今、人口構造の急激な変化、深刻さを増す気候危機、AI・デジタル技術の飛躍的進展など、かつてない大変革のただ中にあります。こうした時代にあって、長野県の未来を切り拓き、将来世代への責任を果たすため、人口減少対策、ジェンダー平等の推進、脱炭素社会への移行、財政の持続可能性の確保など、中長期的課題に正面から向き合います。

また、世界に目を向けると、分断や対立が深まりつつあります。我が国においても、所得格差や年代による価値観の相違、東京と地方の財政力格差、外国人との向き合い方など、分断の兆しが目立つようになってきました。このような時代だからこそ、対話を

重ね、違いを認め合い、共に未来を創る姿勢が何より重要です。引き続き「対話と共創」を重視して県政運営を行ってまいります。

本年も様々な課題に正面から向き合い、全国知事会会長としての立場も活かしながら、次の視点を持って、長野県の発展と皆様のしあわせ実現のため全力を尽くしてまいります。

一 人口減少問題への対応

一昨年12月、オール信州で人口問題に立ち向かうため、行政、企業、地域、県民が結集して設立された「私のアクション!未来のNAGANO創造県民会議」が「信州未来共創戦略」を策定しました。人口減少は、医療、福祉、交通、物流など暮らしの基盤全体に影響を及ぼしますが、悲観的に捉えるだけでなく、新たな社会を創り出す契機として前向きに受け止め対応することも重要です。若者や女性、高齢者、障がいのある方、外国人など、多様な人が力を発揮できる社会の実現に向け挑戦を続けます。

二 暮らしと産業を支える取組

国の総合経済対策を踏まえ、本県も暮らしと産業を守る物価高騰対策、成長投資等による経済構造の転換、県民生活の安全・安心の確保の三つを柱とする独自の経済対策を進めています。第一弾として、生活に困難を抱える方々や厳しい経営環境にある事業者を支援するため、先月成立した補正予算の早期執行に努めます。今後、防災・減災対策や成長投資等も具体化し「長野県総合経済対策」を取りまとめ、第二弾補正予算案を今月中には県議会に提出できるよう取り組みます。さらに、生産性向上や人材確保による産業競争力の強化、賃上げ促進や福祉的支援による家計可処分所得の向上、持続可能な農業の実現、宿泊税を活用した観光立県の実現に、果敢に挑戦します。

三 学びの県づくりと安心・安全の確保

教育長と表明した「学び・教育改革に臨む私たちの決意」のもと、「ウェルビーイング実践校 TOCO-TON(トコトン)」の拡充や特色ある県立高校づくりなどを進めます。

地域交通では、公共交通ネットワークの維持・構築、担い手確保、公共ライドシェア活用などで移動の不安解消と利便性向上に取り組みます。

昨年、クマによる人身被害が相次いだため、ツキノワグマ対策本部を設置しました。棲み分けの徹底や捕獲強化など、安全・安心の確保に全力を尽くします。

四 長野県150周年記念の取組

今年は、筑摩県と長野県が合併し現在の長野県が誕生して150周年の節目を迎えます。「自らを知り 互いを知り 高め合おう『私たちの長野県』」をコンセプトに、県民参加型の取組を展開します。誕生記念日の8月21日には、「つながる長野県」をテーマに県内各地を中継で結ぶ記念式典を開催し、地域や世代を超えた一体感を育んでまいります。

こうした取組に加え、全国知事会会長として、現場・地方の声を国政に届け、分権型社会の実現とゆたかで持続可能な社会づくりに力を尽くしてまいります。また、2028年開催の「信州やまなみ国スポ・全障スポ」の成功に向け、準備を進めます。

結びに、本年が名古屋長野県人会の皆様にとりまして、希望と安心に満ちた素晴らしい一年となりますことを心よりお祈り申し上げ、新年の御挨拶といたします。

令和8年 元旦

年頭のご挨拶

長野県議会議長 依田 明善



新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、新春を晴々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃から、長野県政並びに長野県議会に対し、温かい御理解と御支援をいただいておりますことに、この場をお借りして心から感謝を申し上げる次第でございます。

昨年を振り返りますと、米をはじめとする食料品や日用品、公共料金など、多岐にわたる物価が高騰したことに加え、米国の第2次トランプ政権による広範囲にわたる関税措置など、先行きが不透明な経済状況となり、国民の確かな暮らしが脅かされる

1年となりました。

県議会としましては、県民や事業者の皆様の御意見・御要望を丁寧にお伺いし、着実に施策に反映されるよう尽力いたしますとともに、引き続き、県や関係機関と連携して、県民の皆様が安心して暮らすことのできる社会の実現に取り組んでいく所存でございます。

さて、我が国の人口は、平成20年をピークに減少に転じ、長野県においても、一昨年2月に県の総人口が200万人を下回るなど、本格的な人口減少時代を迎えることとなりました。少子化や人口減少の進行は、社会の活力低下や、地域や産業の担い手の減少につながるなど、私たちの生活に多大な影響を及ぼします。令和5年6月に設置された「少子化・人口減少対策調査特別委員会」では、県内外の優良な取組事例の視察を通じて得た知見を活かして、県の人口戦略について議論を重ね、昨年11月定例会において、「少子化・人口減少対策の一層の強化を求める決議」をもって県の施策方針について意見表明を行いました。県議会として、長野県の将来像を見据えながら、引き続き緊張感をもって県の取組状況を調査してまいります。

また、交通網の整備に目を向けますと、伊那谷と中京圏とを結ぶリニア中央新幹線は、昨年5月に伊那山地トンネル戸中・壬生沢工区が、隣接する坂島工区とつながるなど、県内工事も着々と進展しております。また、東京・名古屋間の開業時期については、明らかではない状況ではありますが、静岡県とJR東海との対話が着実に進捗しているとお聞きしており、先行きに光明が見えてきたと感じております。リニア中央新幹線の開業により、中京圏と長野県との繋がりがさらに強まるとともに、交流が深まることを期待しております。

スポーツでは、昨年7月、令和10年に開催される第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会の開催地として本県が正式に決定されました。令和10年は前回の開催から50年目、長野冬季オリンピック・パラリンピック開催から30年目となる、本県のスポーツ振興にとって重要な節目の年であり、この節目の年に2回目の大会が開催されることは大変意義のあることと認識しております。この大会を契機とし、さらなるスポーツ文化の定着・振興や、スポーツをする人、みる人、ささえる人、すべての皆様がスポーツを通じて1つになる、そうした長野県づくりに向けて全力で取り組んでまいります。

現在の長野県が誕生してから150年の節目を迎える本年においても、私たち県議会は、皆様の郷土、長野県の発展のため、様々な課題解決に向け最大限の努力をしまいたる所存でございますので、今後も変わらぬ御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が名古屋長野県人会の皆様にとりまして、実り多い良き年となりますよう心から祈念申し上げ、年頭の御挨拶といたします。

令和8年 初春

新春を迎えて



あけましておめでとうございます。

新たな年が、県民の皆様にとりまして素晴らしい1年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年7月、ついに、世界トップレベルのグローバルアリーナ「IGアリーナ」がグランドオープンを迎えました。

また、去年は、「ジブリパーク」が開園から3年を、「STATION Ai」がグランドオープンから1周年を迎えたほか、テクノロジーの祭典「TechGALA Japan 2025」、愛知万博20周年記念事業「愛・地球博20祭」、3年に1度の国

際芸術祭「あいち2025」を開催するなど、国内外から多くの人々が愛知を訪れ、賑わいと笑顔に溢れた1年となりました。

「ジブリパーク」や「STATION Ai」を始め、これまで積み上げてきた愛知の力と、「IGアリーナ」など新たに加わった力を原動力として、世界と大交流しながらダイバーシティを生み出し、愛知の更なる飛躍に繋げてまいります。

さて、今年は、9月にアジア最大の平和とスポーツの祭典「第20回アジア競技大会」が、10月にはアジア最大の障がい者の国際総合スポーツ大会「第5回アジアパラ競技大会」が、いよいよ開幕を迎えます。

両大会は、アジア各国・地域との交流を深めるとともに、愛知・名古屋の魅力を世界に発信する絶好の機会でもあります。

県民の皆様と一緒に、両大会を大いに盛り上げ、愛知を更に元気にしてまいりたいと思いますので、一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

2027年の「アジア開発銀行年次総会」、2028年の「技能五輪国際大会」など、今後とも、愛知を元気にし、日本を元気にするビッグプロジェクトが目白押しです。

目まぐるしく変化する世界の情勢に的確に対応しながら、これらのプロジェクトを着実に進め、日本の成長を牽引してまいります。

もちろん、こうした取組とあわせ、喫緊の課題である人口減少・少子化対策を始め、社会基盤整備や農林水産業の振興、教育、女性の活躍、医療・福祉、感染症対策、環境、雇用、多文化共生、防災・交通安全、東三河地域の振興など、県民の皆様のご生活と社会福祉の向上、次代の愛知を担う「人づくり」にも全力を注いでまいります。

引き続き、「日本一元気なあいち」、県民の皆様すべてが豊かさを実感できる「日本一住みやすい愛知」、すべての人が輝き、未来へ輝く「進化する愛知」の実現を目指し、全力で取り組んでまいりますので、名古屋長野県人会の皆様の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

令和8年 元旦

愛知県知事 大村 秀章